

01 個性

「今、お寺に必要なのは住職の個性だ！」

自分の足で歩き、心で感じた経験を島に活かす松浦さんは、島の“イカした”住職。
幅広い活動を通して、地域間の格差やお寺のイメージを軽々と飛び越える。

キラリと光る
個性が大事

○ カッコいいポイント
都会も田舎も関係ない！

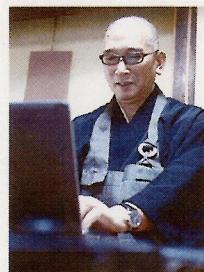
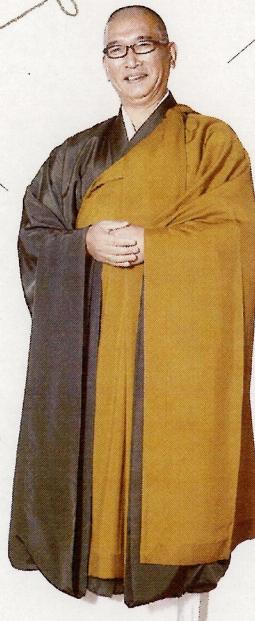
個性は、都会や田舎などの場所や、
仕事・プライベート関係なく生かす
ことができる。あらゆる垣根を超
える姿がカッコいい！ ブログ「住職
日記」でも積極的に情報を発信し
ている。

○ カッコいいポイント
活動の幅が広い

大学では宗教人類学を専攻。修行
後Uターンを決意し、島での個性
を輝かせている。チャリティライブ
にメンタルケアに寺子屋など、一般
的なお寺のイメージを超えた活動
はとても幅広い。

○ カッコいいポイント
広い視野が個性をつくる

愛読家の松浦さんだが、ただ読書
をするだけではない。「本屋に並ぶ
本を見ると、今の社会が抱える問
題やキーワードが見える」そう。生
活に向ける多角度なまなざしが個性
をつくるのだ。

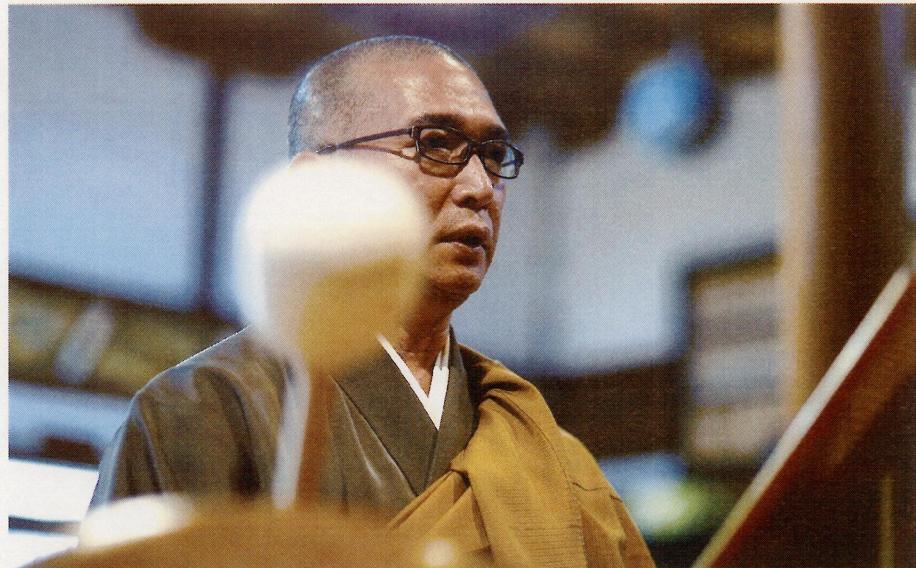


曹洞宗 月桂山 清光寺住職
松浦 真英さん
MATSUURA SHINEI

DATA

- ・年齢…50代
- ・性別…♂
- ・出没ポイント…大崎エリア
- ・高校時代の部活…陸上部
- ・人生を変えた場面…父の涙を見て
「お坊さんになろう」と決意したこと

愛用のカメラと
ノートパソコン



島の暮らしとともにあるお寺を目指して

「広い視野と多角度から見つめるまなざし、
考の深さから生まれる個性こそ、お寺に必
要なもの」と話す松浦さん。お寺のあり方に
についてうかがうと「お寺は地域のコミュニティ
センターなんですよ」と意外なひと言が返って
きた。「地域の方に必要な存在だと思われる
ために何をすべきか、この考え方自体、お寺
は地域のコミュニティセンターであることを
物語っていると思います」。頻繁に更新され
るブログ「住職日記」にも「島の文化を継承す

る身近な存在でありたい」とある。社会問題
として注目されるメンタルケア、さまざまな
地域への募金などに役立てるチャリティライ
ブ、寺子屋など、一見「お寺らしくない」活動も、
お寺を島の人びとの暮らしとともにある存在
と考える松浦さんらしい。「住職の個性こそ
からお寺が生き残る道」と話す松浦さんの
目は、あらゆる枠を超えた個性にキラキラと
輝いている。

ワークショップ参加者のコメント

- ・すごくおだやかで、仏さまのような印象。だけど個性的でお話するのが楽しかったです。
- ・お寺を活かした草の根地域づくり実践者に遭遇!!
- ・『住職』だけど『住職』だけでもない、そんな姿が印象的でした。



祭の花火が近すぎて迫力満点！

02

情熱

仲間とともに育てる「亀ちゃんみかん」「亀ちゃんトマト」で

日本中をおいしい笑顔にしたい！

農業で島を守り、いつしかアニキと呼ばれるようになった男は、

大きくてあたたかい野望を持っている。

みかんで島を
守るんじゃ

カッコいいポイント

幼いころから島を考える

子どもの頃の夢は、「島をみかんで亀田島にしたい」。その言葉通り、作物といういのちを育む仕事を農業として商いにし、会社化。島の雇用活性化にも積極的に取り組んでいる。

カッコいいポイント

亀ちゃんブランドの夢

良いもの、おいしいものを作れば絶対に売れる。大学で島の外を見てきたからこそ自分のつくるものの価値を把握している。ブランド化した「亀ちゃんみかん」「亀ちゃんトマト」は自信作。



味が濃い
亀ちゃんトマト

カッコいいポイント 島をいのちでつなぎたい

島を守るということは、子どもや孫に島のいのちをつなぐこと。農業という生業で、島の雇用・土地（島そのもの）を守り次の世代へつなぐ。未来へ向ける熱い思いがカッコいい！



亀田農園株式会社 代表取締役

亀田英壯さん

KAMEDA EISOU

DATA

- 年齢…30代 性別…♂
- 出没ポイント…大崎エリア
- 属性…アニキ
- 心の叫び…5人の父親は大変だ！
- 島キャリア…15年



島のアニキ、熱い思いを冷静に語る

およそ30年ほど前、「この島をみかんで『亀田島』にしたい！」と無邪気に目を輝かせていたひとりの少年がいた。少年はやがて東京農業大学で農業経済学を専攻、市場で流通の現場を経験し、確かな志を持って島に戻ってきた。亀田英壯さん、その人である。「農業を商いとして成立させたい」と会社を設立するも、亀田さんが目の当たりにしたのは、島民の高齢化により作り手が減り、荒れてい

く土地。そして、収穫時期しか仕事がない人が離れるという現実だった。「一年中仕事があるように規模を大きくしなければ。規模を大きくするためにもっと雇用を生まなければ」。土地と雇用、そして島を守るために亀田さんは立ち上がった。「守りたい。土地も人口減少からも、というか島全体だね」、亀田さんがアニキと慕われるゆえんが、この言葉に凝縮されているように見えた。

ワークショップ参加者のコメント

- 面倒見抜群の兄貴肌！野菜や果物だけじゃない、人も育てる亀ちゃん農園スタイルを感じました。
- 島のためにここまでがんばるのは、本当に島を愛しているからだと感じました。
- ギャップにやられました。思いはアツいのに分析は冷静、バランスのとれた印象をうけました！

大崎かみじまん 島のすべてが釣りスポット！

103 伝える

大崎上島で行われる櫂伝馬は、発祥に諸説あれどおよそ200年もの歴史を持つ島の伝統文化。

幼稚園のころから櫂伝馬に乗っていたと言う藤原さんは、この伝統をつなぐことが自分の使命だと考えている。

わが子と一緒に乗るのが
ワシの夢

カッコいいポイント
瀬戸内海を櫂伝馬でつなぐ

以前は木江、東野で神事として行われていた櫂伝馬を、瀬戸内海の島や地域の団体と協力して、宮島で走らせる活動を進めている。老若男女問わず親しめる櫂伝馬は海をつなぐ。

カッコいいポイント
島のDNAが騒ぎ出す

「ワシが子どもの頃は櫂伝馬に乗るのが当たり前。小さい頃から当たり前に乗っているから、しかられても乗りたって思うんですよ」。藤原さんの島生まれのDNAは櫂伝馬で開花した。



水軍の
血がさわぐ！



カッコいいポイント
ムキになれる大人ってカッコいい

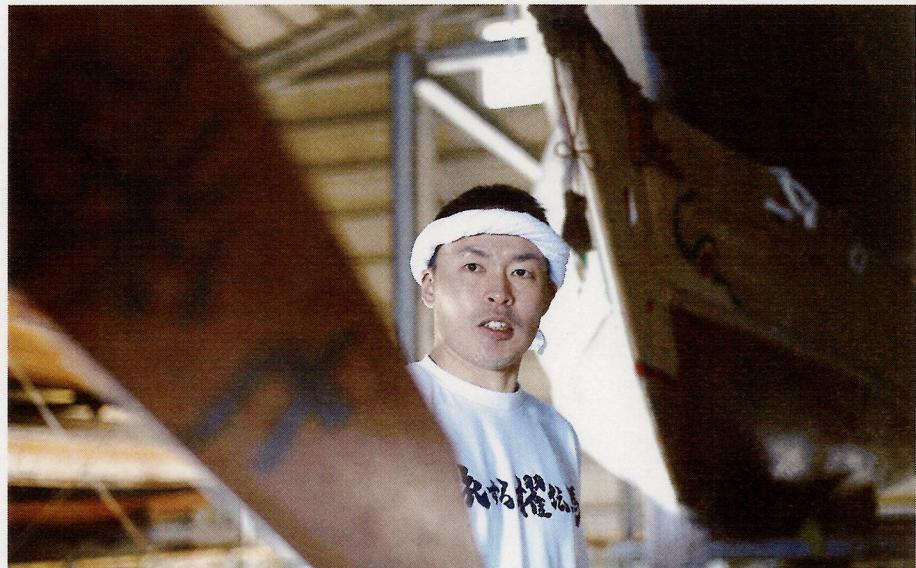
櫂伝馬に興味を持つ子どもが少なくなってきたのは、小さい頃から親しんでなかつたから。「大人が夢中で楽しんで、ムキになる姿は子どもの興味を呼び起こすはず」。と藤原さん。



旅する櫂伝馬実行委員会
藤原 啓志さん
FUJIWARA KEISHI

DATA

- ・年齢…20代
- ・性別…♂
- ・出没ポイント…木江エリア
- ・最近のニュース…公開プロポーズ大成功！
- ・将来の夢…櫂伝馬にわが子と乗ること



海を越え世代を超えてつなぐ櫂伝馬

お話をうかがったのは、とある遠い寒い日。なのに後ろから、たくさんの男たちが熱を放つ夏の海が見える、200年という歴史を背負う櫂伝馬が見える。とにかく熱い、熱い男、それが藤原さんの第一印象だ。藤原さんは櫂伝馬を通して人と人をつなぐ「旅する櫂伝馬実行委員会」で活動している。「瀬戸内海の島や各地の団体と協力して宮島で走らせたり、子どもや女性も乗れる櫂伝馬を企画したりしています」。神事として伝わった櫂伝馬、

イベントという新しいやり方には風当たりもきつかったと想像できる。それでも「ワシら大人が本気になって取り組む姿を子どもに見せたいんです。大人が“しかたなし”にやってたら子どもが興味を持たないでしょう。この素晴らしい伝統文化を守るために型破ることも必要と感じたんです」。迷いのない言葉、伝統の担い手としてのまなざし。今日も藤原さんは、伝統をつなぐ使命の櫂で、時代の海を漕ぎ続ける。

ワークショップ参加者のコメント

- ・夢に向かって確実に歩みを進めているところがカッコいいと思いました。
- ・櫂伝馬の話の時は真剣！それ以外は本当におもしろい兄ちゃん！
- ・櫂伝馬に対する情熱は日本一だと思いました。

大崎かみじまん

スポーツを楽しむ人がたくさんいる。